



たたら製鉄の体験学習を前に砂鉄川で砂鉄を採取する大原小6年生

たたら製鉄控え砂鉄採り 大原小6年生

一関市大東町の大原小学校(佐藤啓校長、児童86人)の6年生は23日、地元を流れる砂鉄川で砂鉄の採取作業を行った。たたら製鉄の体験学習の一環で取り組み、9月18日には本番のたたら製鉄に臨む。

砂鉄採取には6年生14人と教職員、地域に伝わる製鉄文化の継承に励む「ホッパの会」(菊池文悦会長の

会員が参加。同町大原字下川原地内の川で会員がくわなどを使い川底の石や砂をひっくり返し、児童が川底で磁石を動かしながらくつついてくる砂鉄を集めた。

藤原蒼君は「初めてやっただけと結構採れた。9月のたたら製鉄でつかい塊を取り出したい」と満足そう。鈴木優斗君は「岸にもいっぱい砂鉄があった。丈夫で壊れないような鉄ができる」と期待していた。

来月18日の体験学習は、砂鉄川最上流部にある砂鉄川たたら製鉄学習館で予定しており、集めた砂鉄を磁石を使い再度分別し、乾燥作業などを経て鉄の原料として使うことにしている。

内野地区は良質な砂鉄を産する。体験学習は統合前の旧内野小時代から続いており、今年で26年目となる。